



◆生育状況について

1. JA管内 ふじ生育

	発芽	展葉	開花	満開	落花
平年	3/28	4/9	4/23	4/26	5/2
令和6年	4/1	4/10	4/20		
令和5年	3/22	3/31	4/12	4/17	4/22
令和4年	3/29	4/9	4/21	4/23	4/28
令和3年	3/22	3/31	4/17	4/21	4/26

◆当面する重点作業について

1. 降雨が少なく、乾燥状態がつづいている場合は、10a 当り、20～30mm程度の定期的なかん水を積極的に行い、玉肥大を促す。基本的には晴天が5日以上続き乾燥状態になる前にかん水を実施する。
2. 摘果は「がく立ち」を確認でき次第、着果位置にこだわらず早期にあら摘果を実施する。
あら摘果は隔年結果しやすい「ふじ」から実施し、満開30日まで終わらせることを基本とする。
3. 背中の新梢（徒長枝）は30cmに1本残り日焼け防止や側枝育成用とする。
4. 第5回薬剤散布を適期に行い、各病害虫の予防防除に努める。
5. フラン病の発生が散見されています。（特に胴フラン）見つけ次第処分を行う。
6. 毎年メンチュウの発生が見られる所は、背中の徒長枝や根元のヒコバエを整理し風通しを良くする。
7. 計画的に下草管理を行う。

◆中心花の無い場合・変形果（花）の対応について

1. ふじ : 着果が少ない場合は側花（果）で対応し着果量を確保する。
2. その他の品種：着果（花）量が多い場合は花そうごと摘果（花）する。
着果量が少ない場合は上枝の着果量を増やすか、側花（果）で対応する（サビ果・変形果など品質低下はする）

◆第5回薬剤散布について

1. 散布時期：5月14日(火)～19日(日) 散布日 月 日
2. 調合量：水1000l 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展着剤	10ml	—	—
オンリーワンフロアブル	50ml	褐斑病・うどんこ病	7日
Ⓜモスピラン顆粒水溶剤	25g	キンモンホソガ・シンクイムシ類	前日
ペンコゼブ水和剤	200g	黒星病・黒点病・斑点落葉病	30日

3. 散布量：10a 当り＝4000l以上

4. 留意事項

- ①アブラムシ類の発生が多い場合は、モスピラン顆粒水溶剤を2,000倍（水1000l 当り 50g）で使用してもよい。
- ②カイガラムシ類発生園は、アプロードフロアブル1,000倍（水1000l 当り 100ml）を加用散布する。
- ③落花20日前後はサビ果が発生しやすい時期のため、展着剤の量が多くならないように注意する。
また、多種の薬剤の混用も避ける。

◆カルシウム欠乏対策について

ビターピット・ジョナサンスポット、コルクスポット等カルシウム欠乏対策として、必要に応じて、下記内容により、葉面散布肥料を散布する。

1. 対策時期：第5・6回薬剤散布時、又は継続して月に1回程度
2. 使用資材：

資材名	倍率	1000当り使用量
ストピットII	500倍	200g
スイカル	1,000倍	100g
カルビタ	1,000倍	100g
カルタス	500~1,000倍	200~100g

3. 注意事項：基本、カルシウム肥料とリン酸肥料は結合してしまうため混用しない。

◆適正着果（新わい化含）・病虫害防除等 講習会開催について

次の日程により講習会を開催しますので、都合のよい会場で受講して下さい。

開催日	曜	時間	集合場所	担当	
5月27日	月	午前 9:30	若穂宮農資材センター前 (川田)	松沢	
		午前10:00	小林 隆雄様園 (梵天)	根津	
		午前11:00	若穂果実流通センター前 (綿内)	松沢	
		午後 1:30	山新田公会堂 (綿内)	松沢	
		午後 2:00	中真島中央道 (真島)	根津	
5月28日	火	午前 9:30	会行之橋東側	外谷・徳武	
			中村 安利様園 (東条)	伊藤	
5月29日	水	午前 9:30	西部流通センター	徳武・寺澤	
			午前11:00	塩崎第1共選所北側 (稻荷山駅前通)	徳武・寺澤
				柳沢公民館前	徳武・佐藤
		午後 1:30	小林 英一様園 (御厨)	松橋	
			福島 宏之様園 (瀬原田)	徳武・寺澤	
		有旅公民館前	徳武・佐藤		

◆ハダニ対策について

下草(ヒメオドリコ草・ギシギシ等)を観察し、ハダニの発生が多い場合には、バスタ液剤又はザクサ液剤(水150ℓ当り500ml)を散布する。除草を図るとともに、ハダニの密度を減らす。りんごの枝葉には絶対かけない。

また根元のヒコバエを切り取って直ぐに切り口に散布すると吸収されて薬害が出る場合があるので注意する。

◆新しい化栽培について

1. 樹勢の判断について ※平年の生育進捗の場合

- 1) 新梢の停止時期で判断します。
- 2) 5月5日前後に停止・・・極めて弱樹勢。硫安10kg/10aの施肥と葉面散布(尿素500倍)
5月15日前後に停止・・・弱樹勢。葉面散布を行う。尿素500倍(水100ℓ当り200g)
5月25日前後に停止・・・適正。満開40日前後でほぼ100%の新梢停止。

2. 苦土(マグネシウム)欠乏について

- 1) 5月中下旬頃に発生しやすい。新梢伸長が旺盛な若木は激発しやすい。
- 2) シナノドルチェ・秋映・シナノゴールド等が出やすいが、ふじやつがるでも発生する。
- 3) グリーントップ500倍(100ℓ当り200g)やリーフマグ1,000倍(100ℓ当り100g)を2回程度、葉剤散布に加用して軽減する。

3. 施肥について

- 1) 成木の全品種共通 時期:5月中旬～6月
内容:「硫安」1樹20g前後 樹勢・着果量に応じて調整する。
「硫マグ25」2袋/10a当り
- 2) 定植1年目は、5月中下旬以降に主幹伸長を確認しながら、必要に応じて7月末まで窒素施用する。
2週間間隔で2～3回、「硫安」を1樹当たり20～30g施用する。
- 3) 定植2年目は、5月中下旬に樹勢が弱い場合は「有機専科」を10a当り1袋施用する。

《栽培に関する営農技術員への問合》

徳武(篠ノ井西部):080-1202-0260/外谷(篠ノ井東部):080-8048-6602

※篠ノ井西部は、当面、寺澤・松坂・佐藤・外谷も対応致します。

佐藤(信更):090-7179-9866/伊藤(松代):080-2239-6816

松橋(川中島):090-4816-6297/根津(更北)080-1203-8576

松澤(若穂)080-1191-5166/寺澤(全域・情報担当・編集):080-1188-5229

吉澤(全域・情報監修):090-2543-0365

栽培に関する電話対応は、担当地区関係なく対応できます。園地指導や地区組織関係のお問い合わせは、地区担当までお願い致します。

○果樹のアドバイザー(流通センター長兼務)松坂(篠ノ井西部)080-1188-4131

《栽培・販売に関する問合》各流通センター・共選所/営農販売部(本所):292-0930

《資材に関する問合》各JAファーム・営農資材センター・経済部農業資材課:299-3311